

[Interview] インタビュー「ごちゃまぜな人」第4回

## 小島悦子さん 小島和美さん

小島悦子 こじま・えつこ

青森県弘前市出身。10代の頃より生け花を嗜み、その後フラワーアレンジ教室を主宰するなど、長年に渡りお花に専ら。2008年に夫婦でいわき市に移住し田舎暮らしをスタート。ボランティアグループ「千日紅の会」代表

小島和美 こじま・かずみ

埼玉県さいたま市出身。2013年に東京からいわき市に1ターン。2015年よりハイジの里山での活動をスタート。NPO法人ふよう土 2100(郡山市)理事/NPO法人やってみっべ久之浜・犬久(いわき市)共同代表

## みんなが主役になれる里山

いわき市大久町で運営されている「ハイジの里山」は、市内外の数多くの方が集いイベントも行われている場所。

美しく拓かれた里山で、音楽や食など様々な取り組みが行われています。

しかしこの里山、もともとは「田舎暮らしがしたい」と埼玉から移住した、たった一組のご夫婦が切り開いたものでした。

里山の管理人、小島悦子さん、和美さん母娘は、この地で私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。



**悦子さん** アルプスの少女ハイジの本を読んでから、あんなふうに自然の中で駆け回りたいという憧れがありました。それから、いつかは田舎暮らしをしたいという夢もっていました。この場所を見つけたのはたまたま。移住してきたのは2008年の3月です。震災後は、一時期は娘のいる東京に避難していたのですが、ここで自分のことをしようって思い定めることができて。戻って来てからは、被災された方に開放したり、震災ボランティアの方に使って頂いたり、そうしているうちに自然と今の形に近づいていったように思います。

**和美さん** わたしは震災後にここに移り住んで来ました。ボランティアの

仲間が携わっていた「おてんとSUN企業組合」が運営するコットン畑をお手伝いすることがあり、そこでその理事をしている里見喜生さんと知り合ってから、里見さんたちが運営しているNPO法人の「ふよう土 2100」の仕事にも関わらせて頂くことになりました。ふよう土は、障がいのある子どもたちの支援する団体です。子どもたちをこの里山に招いて、山遊びしたり、フラワーアレンジしたりと、いろいろな活動をしてきました。

そこで感じたのは、その子どもたちがここで時間を過ごしているうちに自然と笑顔になっていくということでした。普段は自分の気持ちを表現することが得意な子どもたちも、ここでは少

し素直になれるようで。畑の土を触ったり、収穫の体験をしたり、ここで自然に触れ合っている時は、とても生き生きしているんです。やっぱり、自然にはそういう力があるんだと改めて感じました。

**悦子さん** 心に障がいを持つ人は、見た目ではわからないけれど本当に色々な人がいて。凝り性の人もいれば、自分に自信を持ってない人もいました。そんな方々が押し花の日は楽しみに待っていて、最初は下を向いていた顔も、少しずつ上を向いてくるんです。「自分にもこのように人に喜んでもらえることがあるんだ」って私自身が自らを肯定することができたように思います。それは里山の活動も同じなんです。

障がいのある人たちだけじゃない。何かに躓いた人が、自分を肯定できるような場所。世界中にある差別や偏見、私たちの身近なところにもあります。でもここではすべての人が同じように癒される、ちょっと羽を休められる。そして笑顔になれる。そんな場所にしていけたら素敵だと、改めて思うようになりました。

自然を通じて、自ら感じ・考え・学び・行動することと出会う場所、そして、子どもも大人も地域もみんながつながるきっかけとなる場所。ハイジの里山をそんな場所にしていくことが、今の私たちの生きがいです。

いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

GOCHAMAZE  
times2017  
SPRING

4

特集 ごちゃまぜ的「働き方」



## CONTENTS

## [Talk Session]

丸田千果さん  
(株式会社ラッシュジャパン)

## [GOCHAMAZE Report]

ごちゃまぜボードゲーム

## [Interview]

小島悦子さん・小島和美さん  
(ハイジの里山)

and more...



theme

ごちゃませ

「働き方」対談

talk session

ソーシャルデザインワークス

佐藤有佳里

丸田千果

株式会社ラッシュジャパン

個性的な化粧品やバス用品が世界中で愛される一方、動物実験に対する反対声明など社会的なメッセージを強く発信し続けるイギリス生まれの化粧品ブランド「LUSH(ラッシュ)」。今回の対談は、株式会社ラッシュジャパンでブランドコミュニケーションを担当する丸田千果さんをお迎えし、働くこと全般についてお話を伺いました。聞き手は、自身もラッシュの商品を使い続けるソーシャルデザインワークスの佐藤有佳里。会社での仕事を通じて、いかに自分の夢と向き合うか。そのヒントがたくさん見つかりました。

**佐藤** 今日、カリキュラムの1つとして、いろんな働き方を皆さんに知ってもらいたいと思い、ラッシュジャパンの丸田千果さんに来て頂きました。ラッシュという会社がどういう会社なのか、働き方や、そもそも働くとはどういうことだろうとか、「働き方講座」として色々な質問をしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

**丸田** ラッシュは新鮮な原材料を使っ

た手作りで商品をご提案しつつ、商品やショップ、オンラインのプラットフォームを使って、お客様と一緒に社会課題に対してアクションを起こす「キャンペーンカンパニー」です。私たち企業は、ビジネスをさせてもらっている社会の一員として、その社会の中の課題に向き合う責任があるということを前提に、その課題に対して何が出来るだろうかと考えてキャンペーンを展開します。社会をもっと良くしたい、人も動物も自然環境もみんながハッピーで持続的に共存できる社会をつくりたい、それが会社の1つのミッションなんです。

**佐藤** 私にとってラッシュは、商品が好きというのは大前提ですが、世界中の課題にアグレッシブに向き合い、行動を取るキャンペーンカンパニーということですよね。もしグローバル展開したいようなキャンペーンがあったら、日本側からUKに企画を持って行くということもあるんですか？ それともUKの方からこういうのはどうだろうと提案があるんですか？

**丸田** 最初はチャリティ・キャンペーン担当として、ラッシュが気にかける社会課題をキャンペーン化して対外的にコミュニケーションする仕事をメインにしながら、助成金のプログラムにも携わっていました。「チャリティポット」というポディローションがあるのですが、消費税を除く売上げの全額を小規模な

草の根団体に寄付するプログラムです。世界中にチャリティポットのパートナー団体がたくさんいて、そういった団体を応援することで、社会に必要な変化が起これるという会社の考え方もあります。チャリティポットを通じて出会った団体と一緒に、ラッシュの最大のメディアである店舗を使ってキャンペーンすることもあれば、オンラインで情報を発信することもあります。最近展開したのが、日本国内の難民問題でした。

**佐藤** 私もあのキャンペーンで難民に対する意識が変わりました。素敵だなと思うのは、千果さんは「ラッシュジャパン」の社員だけけど、グローバル企業としてのラッシュの社員でもあるということ。日本でキャンペーンを展開しながら海外の人たちとも仕事するってことですよね。もしグローバル展開したいようなキャンペーンがあったら、日本側からUKに企画を持って行くということもあるんですか？ それともUKの方からこういうのはどうだろうと提案があるんですか？

**丸田** 両方ありますね。ラッシュは変化を厭わない会社なので、どんどん現場の意見を拾い上げてくれるし、日本限定の商品をUKで開発してくれたりします。やっぱり私たちは化粧品の小売

の会社なので、商品が一番です。そこにいろんな想いやメッセージ、楽しさを織り交ぜていきます。Funは忘れたくないですね。色々な人から「ラッシュって香りの強い化粧品屋さん？」って言われますが、その香りやカラフルさの中に、お客様を楽しませたいという想いを込めています。桜のシーズンには、京都の漬物屋さんから桜の塩漬を買わせてもらって、スクラブに入れて「ハナミスクラブ」なんて商品を出させてもらったこともありました。

**佐藤** それ使いました(笑)!

**丸田** 誰でも声を上げていい、とにかく面白いことやろうという、フットワークの軽さがある会社です。

**佐藤** 会社で「これやりたい!」って手を挙げた人の企画が、実際にグローバル展開されちゃうって夢がありますよね。普通はトップダウンでやってしまいます。会社で決めたことを組織が達成するのが日本の企業ですよね。でも、現場の販売員がしたいことを世界でやっちゃおうっていうのがほんとラッシュだと思っています。自分が思っていたよりも大規模に夢が叶う経験はなかなか出来ないですよ。

**丸田** 私たちの会社はトップダウンじゃなくて、逆三角型になっています。まずはお客様が一番上について、その下に、お客様と直接関わるショップスタッフがいて、その下にショップマネージャーがいて、さらにその下にオフィスメンバーや製造メンバーがいて、一番下に創業者がいる組織図になっています。下に行くほど上の人をサポートしようということ。オーナーシップを持つってことをよく言っています。上司が決めたことをチームに落として、上司から言われたことをやる組織もあると思いますが、うちの場合は、上司の意見よりも「あなたは何やりたいの? 提案ない?」ということも言ってもらえます。それがグローバル規模になるかどうかということよりも、個人のアイデアが形になって会社として発信されて、世の中に広がっていく、そして誰かから「あのキャンペーンよかったよ」って言ってもらえる。それは本当に達成感があるし、自分がオーナーシップを持っていたから、余計にその達成感があるんだと思います。

**佐藤** うちの小さい会社ですけど、やりたいと言ったことに対してノーを言われることはないです。失敗するかもしれないけれどとどろあえずやってみようっていうノリ。やってみて面白かったらもう

一回(失敗を糧にして)やればいいのか、まずやってみる。この間も、音楽イベントを地元のお寺とさせて頂いて大盛況に終わりました。そういう会社だからこそ提案できたと思っています。出来ない理由ばかり考えていると、結果やらないという選択になるんだと思います。

**丸田** どうしてそんなに多くの方がコラボレーションしてくれるんだと思いますか?

**佐藤** みんなが大きく頷くのが「ごちゃませ」という単語。みんな口には出したことがなかったけど、同じようなことに違和感を感じているんだと思います。だから、その単語を聞いた時に「そうだよね」と共感が生まれる。本当はいろんなアクションを起こしたいとか、色々な問題を理解したいとか、そういう風に思っている人は多くなって。自分で声を発するには勇気が要るけど「ごちゃませ」という言葉を使い始めた時に、「私も同じこと思ってた!」って大きな声で共感して、その共感がコラボレーションになるのかなと思います。

**丸田** ラッシュの創業者は、ラッシュを始める前に別の会社を始めて、倒産させています。それもあって、信念の中で「たとえ失敗して全てを失ったと

しても、再びやり直す権利があると信じています」と言っています。もしかしたら、そういう会社ってそんなに多くないかもしれない。そういう意味では、私はとてもいい会社だと思います。

**佐藤** 普通は「リスク考えよう」ってなりますよね。でもそうするとやらない選択肢しなくなっちゃうんですよね。リスクを考えると、イメージが失敗から始まってしまふ。どうしたら成功するか、成功したらどうなるかってことを考えて取り組みたいです。やってみてダメだったら、また最善を尽くして解決すればいい。会社もそう言ってくれるのでチャレンジができます。

**丸田** そうですね。まず、会社・組織に所属しているって何かあって思った時、やっぱりゆかりさんと同じで、同じ方向を向いている仲間がいるということがあると思います。何か伝えたいメッセージがあった時、自分一人で発信するより、間違いなく仲間と仕事を通じて発信した方が広がりがあって、それが組織に所属するひとつの醍醐味だと思います。仕事はどうでしょう、人生に深みをもたらしてくれるものであり、場所ですかね。仕事を通じてインスピレーションを与えてくれる方々にお会いできたり、気づきや学びをもたらしてくれる。

実は、今の会社に入ってから、古い友人から「千果が千果らしくなったね」って言ってもらえて。すごく自分にマッチしている場所だと思っています。

**佐藤** 私と千果さんに共通するのは、自分のやりたいことを仕事を通して実現できる会社に所属しているということでしょうか。私たちの会社も、ごちゃませという理念を伝えるキャンペーンカンパニーなんだと気がきました。そういう会社だからこそ、ビジョンを共有しつつ、働き方とか、考え方とか、そういう個々の違いを受け入れられる自由な組織でありたいと思います。今日はありがとうございました!

**丸田千果** まるた・ちか

神奈川県横浜市出身。NGO教育コンサルティング・広告代理店でプランナーの経験を経て、株式会社ラッシュジャパン入社。ブランドの持つストーリーや社会課題に対してお客様と一緒にアクションを起こすコミュニケーション施策の企画を担当。



**佐藤有佳里** さとう・ゆかり

福島県富岡町出身。幼い頃から障害の有無によって社会の待遇が違うことに違和感。世田谷福祉専門学校で手話を学んだ後、聴こえない方の窓口ソフトバンク渋谷手話カウンターで接客、前職ではリタリコユニアで療育を経験。



子どももワイワイ遊べる  
新感覚ボードゲームでごちゃませ!

# GOCHAMAZE BOARD GAME

意外と奥の深いボードゲーム。じっと座って行う地味なゲームだと思われがちですが、意外と身体を使うものや、年齢に関係なく、室内でワイワイ遊ぶことができるものもあります。そこで今回のごちゃませイベントは「ボードゲーム」。「いわきでボードゲームはセザンヌ会」の皆さんにご協力頂き、リノベーションが終わったばかりのソーシャルスクエアいわきを会場に開かれました!

**ごちゃませイベントとは?**  
わたしたちが目指す、あらゆる障がいのない「ごちゃませ」の社会。その価値観を1人でも多くの人たちに感じてもらいたい。そんな思いで定期的に開催されているのが「ごちゃませイベント」。農業体験、スポーツ、音楽など、様々なジャンルを取り入れた参加型イベントです。ぜひご参加下さい。

## ごちゃませReport

今回のごちゃませイベントの会場は、リノベーションが完了したばかりの「ソーシャルスクエアいわき」。スペースの中央に、パーティションが取り外せる便利な長テーブルが設置されているのですが、ボードゲームをするためにリノベーションしたんじゃないかってくらいに便利。おもわず大人も子どももごちゃませに盛り上がってしまいました。  
セザンヌ会のみなさんが持ってきてくださったのは、人生ゲームのようにサイコロやコマを使うものや、カードゲーム、ブロックなど 30 種類近く。「あ!何か

見たことがあるー!」というゲームから、海外製の初体験のものまでとにかくたくさん。今回はそのうちの5種類ほどで遊びました。ボードゲームって日々進化しているんですね。短時間でできるもの、対象年齢も「3歳~99歳までOK」というもの、親子だけでなく孫とできるものなど幅広い。サイコロ以外にもアイテムカードやペンを使うものなど、遊び方も多様化していました。  
ルールが難しいゲームもありますが、シンプルなゲームほど垣根が取り払われて大人が、「悔しいー!」「負け

たー!」と叫ぶシーンもありました。また、ゲームの進め方、やり方がわからない人がいた時は、大人も子どもも互いに教えあう風景が見られました。  
普段の生活とイベントで立場が逆転するのが「ごちゃませ」の醍醐味。これからの時期は花粉の飛ぶ季節や梅雨など、なにかと「室内」での遊びが増える時期。そんなときカードゲームはぴったりです。普段はテレビゲームをしているそこのあなた。ぜひボードゲームにチャレンジしてみてください!

### セザンヌ会 副会長 渡辺剛史さんよりメッセージ

今回は、ボードゲーム初心者定番となる、理解の容易なゲームを中心に持ち込みましたが、同じゲームを繰り返しプレイしたいとリクエストも出るなど、楽しんで頂けました。ただ、2時間という限られた時間ではルール説明だけでもかなりの割合を割っていたことが残念。機会があれば、もう少し幅広いゲームの選択が考えられます! テレビゲームなどと比べてコミュニケーションの要素が多いので、相手とのやり取りを含めて楽しめますよ!

## TOPIC オリジナル軍手完成!

グリーンバードは、2003年に発足してから今年で14年目。この歴史の中で、軍手やピブス、イベントごとでデザインが違うゴミ袋など様々なグッズが生まれました。実は今回、「初」となるコラボグッズ、「子ども用の軍手」が「いわき」で誕生しました!これは、ゲームソフトや音楽CDなどを取り扱うエンタテインメント専門店の Wonder Gooさんの多大なるご協力によって実現しました。その数なんと500組。子どもたちも大人同様に、全身グッズで活動することが出来るようになりました。

### いわき駅周辺でも活動開始!

なぜ、内郷駅の定例お掃除に加え、いわき駅でも活動しようと思ったかと言うと…単刀直入に「ゴミが多いから」です。ゴミ箱ではない場所に、拾いきれないほどのゴミが放置されています。私たちチームの特徴は、子どもの参加率が高いこと。そのおかげでワイワイと楽しく活動中です。ですが、明らかに大人が捨てた、「ビール缶」「タバコの吸殻」「一升瓶」などを子どもたちが拾っている姿を見ると、なんだか悲しい気持ちにもなります。。「拾うゴミがないねっ!」って話ができるよう、クリーンな街を一刻も早く作っていききたいものです!

### 渋谷のラジオに出ちゃった!

今年の2月、いわきチームとして出演してきました!誰でもできる小さな社会貢献「ごみ拾い」だけど、「ありがとう」と人から喜んでもらえる。それがなんだか心地良い!また、数十人のコミュニティだからこそ、縛りがなく途中参加も途中で帰るもOK!定例お掃除もあれば、地域のイベントに出張することもあり、自由でゆる〜い活動だからこそこれまで続けてこれたんだなーと話をしていて改めて感じました。  
車移動の多いいわきのみなさん!スマートフォンで公式アプリも配信されているので、たまに渋谷のラジオをぜひ聴いてみて下さいね!

### greenbird いわきチーム通信とは?

GOCHAMAZETimes 創刊から連載しているこのコーナー。いわきチームの活動報告やメディア出演報告、コラボレーションイベントの予定日などお伝えしていきます。

**【定例お掃除】**  
・第1土曜日|9:30~@いわき駅  
・第3土曜日|10:00~@内郷駅  
・第3日曜日|11:00~@パークフェス

その他、さまざまな方とコラボしたり、地域のイベントにも参加していきますので、詳しい情報は「グリーンバードいわき」で検索!

## New Project

ハンドスタンプアートプロジェクト公認  
ソーシャルデザインワークス 10,000枚事務局



ハンドスタンプアートプロジェクト(HSAP)とは、6歳と5歳のお子様のお母さんでもある、横山万理子さんが2014年1月に発足。きっかけは、難病を持って生まれ、5歳で天使になった息子さん。たとえ病院のベッドにいても、遠く離れた場所においても、誰でも参加できる手形を集め、『子供たちを笑顔にする』活動をしています。  
目標は、2020年までに10万枚を集め、世界一大きなアートを作ること。『誰でも参加出来る』『国籍、年齢、性別、など一切関係ない点』など、私たちのごちゃませの理念と合致する点が多く、私たちも参画することになりました。目標は、なんと10万枚のうちの1万枚を集めることです!ぜひ仲間になりましょう!

<http://www.handstampart.com/>



## 全国障害者就労支援ローカルネットワーク全国大会

### いわきで開催



就労支援に関わる全国の事業所の連携を深め、各分野の団体が協働する新たな地域支援モデルを議論しようと、2月18日、19日の2日間に渡って「全国障害者就労支援ローカルネットワーク」の全国大会が開催されました。会場は、いわき市のラトプ。私たちソーシャルデザインワークスが事務局を務め、開催をサポートしました。

全国障害者就労支援ローカルネットワークは、平成20年に誕生した就労支援事業の全国ネットワーク。会社や地域、領域の垣根を取り払い、事業所や自治体、

国との連携を増やすことで、各地域の福祉の質を向上させ、障がいのある方が当たり前で働ける社会を作ることを目的としています。年に1度ずつ全国大会が行われ、互いの経験や知見、情報を交換し合ってきました。今回のいわき大会で9回目。東北では初開催となります。

初日は参加団体の活動内容、国の今後の方針を確認しながら、各事業ごとに分かれての意見交換が行われ、2日目は、障害者の就労をテーマに全国の支援者が集い医療分野、教育分野、企業、自治体からの参加者と共に、各分野の協

した地域支援モデルを議論しました。

ゲストとして、行政からは厚生労働省障害福祉課課長補佐、いわき市保健福祉部の部長と主査、主事、教育分野からはいわき明星大学のキャリアセンターと福島県立平養護学校の進路指導部教諭、医療分野からは新田目病院、舞子浜病院の2病院からケースワーカーなど現場の皆さん、企業分野からは株式会社マルトグループホールディングス管理本部副部長に来て頂きました。様々な方にご参加いただき、幅広い議論を進めることができました。

障がいのある方たちが輝くには、支える側の自立と成長が欠かせません。なぜなら、障がいのある方たちの未来が、私たちの支え方で変わってしまうからです。また、想像力も欠かせません。成長していく姿を想像できるかどうかで、支援に差が出てまいります。知識や技術、問題点などを共有し、ネットワークを大事にしながら、「諦めない社会」の実現のため、歩みを進めたいと思っています。

ソーシャルデザインワークス事務局長 松隈茂雄

# ソーシャルスクエア SOCIALSQUARE から

## いわき



### 地域コラボカリキュラム

ソーシャルスクエアでは、地域で活動する皆さんをスクエアにお迎えし、その方の講演や活動そのものをカリキュラムとして提供する「地域コラボカリキュラム」を実施しています。通常のカリキュラムで、私たちはコミュニケーションやビジネスの基礎をもう一度再確認しますが、それだけでは「社会との接点づくり」が足りません。地域の皆さん自身にカリキュラムを行って頂くことで、スクエアの利用者は「リアルな社会」を感じることができ、その体験そのものが就労移行のための1つの訓練になります。

一方、障がいのある方を地域で受け入れるには、地域そのものの受容力を高めていく必要があります。そのためには、地域のキーパーソンにの皆さんにも、障がいとは何かを実際に体験して頂く

必要があると考えます。つまり、地域コラボカリキュラムは、利用者にとっても、そして地域のキーパーソンにとっても大きな気づきの場となり、それが結果として多様性を認め合う社会に繋がるといえます。このため弊社では、この地域コラボカリキュラムに力を入れています。

先日行われたのは、「メディカルハープ」のカリキュラム。市内で活躍する今泉奈津子さんを講師として迎え、メディカルハープの基礎から説明頂きました。ストレスの多い現代社会。不安になったり、小さなことにイラッとしたり、精神的な負担が多いものですが、ストレスを「外側から」コントロールするためのメディカルハープ。生活に取り入れる意義を学ぶことができました。

## 西宮



### 教育機関との連携を模索

合理的配慮の施行から1年。各教育現場で、誰もが等しく講義を受けることができる環境づくりが進められていますが、学生たちに対する支援は「学内」での支援に限られることが多く、生活全般にわたる支援はまだ未成熟なのが現状。学校になじみず引きこもりがちになったり、就職活動での戸惑いが就職後の度重なる転職に繋がることが多く、入学して間もない18~20歳までの若年層へのケア、発症する前の支援が喫緊の課題となっています。

そこでソーシャルスクエア西宮では、大学など教育機関の皆さんをお招きし、どのような支援が望ましいのかについて意見交換を重ねています。3月にも意見交換会が開かれました。就職へ向かう前の18~20歳の学生を中心に、

どのような支援が可能なのか、特に、教育機関や福祉事業所がどのように役割分担を行っていくかについて意見を交わしました。改めて確認されたのが学生とのニーズのすり合わせ。ニーズをもとに支援を行い、1事例でも多くのモデルケースを確立させていくことが重要です。

そのためにも、児童福祉施設と障害者福祉施設の連携、専門学校など大学以外の高等教育機関への支援体制づくり、あるいは、障害者の診断・需要を求めないケースへのアプローチなど、各種対応が求められます。それを確認できた意見交換会になりました。ソーシャルスクエア西宮では、今後も教育機関との連携を進め、検討事項を実際の動きに繋がられるよう活動していきます。

実習を通して働く準備を

人生に楽しみを増やしていく

気軽に相談できる場所

ソーシャルスクエア

# SOCIALSQUARE

とは

SOCIALSQUAREとは、「就労移行支援」と「自立訓練(生活訓練)」のサービスを提供している福祉事業所です。障害特性への理解がある支援クルーにより、生活習慣の見直しや働くためのスキル習得など様々なニーズに対応できる環境を整えています。就労移行支援とは、体調管理、コミュニケーション訓練、職業訓練、生活相談などの支援を受けながら支援クルーと一緒に就職と、その後の職場定着を目指していく場所です。自立訓練(生活訓練)とは、リラックスできるサードプレイスとして、さまざまな活動を通して、心に栄養を与えることや生活リズムを整え、活力ある人生に一步步踏み出していく場所です。

**いわき店**

〒973-8404 福島県いわき市内郷内町水之出17  
JR常磐線内郷駅から徒歩8分  
Tel **0246-84-8301**  
Mail **ss\_iwaki@sdws.jp**

**西宮店**

〒9662-0857  
兵庫県西宮市中前田1-27 ラビットビル1F  
阪神西宮駅、JR西宮駅より徒歩12分  
Tel **090-8377-4839**  
Mail **ss\_nishinomiya@sdws.jp**

一年後の自分はもっと自分らしく

## ソーシャルスクエアメンバー募集中

お気軽にお問い合わせください。

## 編集後記

ついこの間まで、新年明けましておめでとうございます!と挨拶していたのが、気づけばもう春ですね。ひな祭りも終わり、次はお花見の時期でしょうか。日々過ぎ去るのは早い一と感じてはいるものの、毎日充実している松岡です(笑) さて…今回のごちゃまぜページ、ボードゲームにグリーンボードにそして新規プロジェクトのハンドスタンプアートなど、コンテンツが盛りだくさん。

そのため、ページ構成を変えてみました。デザイナーってすごいですね!私のざっくりとしたアイデアでも、すぐに「こんな感じ?」とビジュアル化してくれます。改めて当法人デザイナー陣に感謝です(笑) GOCHAMAZE timesを手にとってください「ごちゃまぜ仲間」を増やしていけるように、これからより魅力あるものにしていきます!

企画 / 松岡真満



表紙コラボアーティスト 小松理度 こまつ・りけん

1979年福島県いわき市小名浜生まれ。フリーランスの広報・ライター。テレビ局の報道記者、雑誌編集者、かまぼこメーカー広報などを経て、2015年に中小企業の情報発信やPRを支援する「ヘキレキ舎」を立ち上げ独立。2015年より、ソーシャルデザインワークスの広報チームに加わり、現在は「GOCHAMAZE times」の編集担当としても活動中。今回は、趣味的に続けている写真作品を表紙として使用した。写真は小名浜港の岸壁に打ち寄せる波。何一つ同じ形のない波と、一つの海のコントラスト。不変(普遍)と変化の象徴としての海が、人間の「ごちゃまぜ」な日々の営み、そのものを表現している。



どこを見まわしても違う。当たり前、多様である。人種も言葉も文化も、宗教も。常識だって非常識。誰もがマイノリティのこの街で暮らすには、寛大な心が必要だ。電車が行き先を変えたって、荷物が届かなくなると、そんなこともあるよねと。  
ニューヨーク支部 宮本(理事)



## GOCHAMAZE times

発行日 | 2017年3月20日 **2017 春号**  
 発行人 | 北山 剛  
 編集 | 小松 理度 (ヘキレキ舎)  
 デザイン | 鶴澤里佳 (marutt)、小松 知寛  
 撮影 | 今泉 俊昭  
 企画 | 松岡 真満  
 発行 | 特定非営利活動法人  
 ソーシャルデザインワークス  
 印刷 | 株式会社東海共同印刷